

## 3 さわやかな地域社会

## 3

さわやか  
運動

「私たちの街は、私たちの手できれいにしよう」—横浜市では、昭和五三年度から重点施策の一つとして、「ヨコハマさわやか運動」を推進している。この運動は、従来の都市美化運動を全面的に見直し、市民と行政の役割分担を明確にしながら、ともすればうすれがちな連帯意識を高めることによつて、横浜をだれにでも誇れる清潔な温かみのある街にしよう、というのがねらいである。

## ■4月と10月が強調月間

現在、自治会・町内会などの各種市民団体をはじめ、企業、行政機関などによつて

市本部、各区本部が構成され、全市的にさまざまな活動が展開されている。

第一は、統一実践活動である。毎年、四月と一〇月をさわやか強調月間として各区ごとに拠点を設け、清掃活動や街頭広報を行っている。

第二は、地域ぐるみでの定期清掃活動の推進である。区や連合町内会、自治会・町内会単位で定期清掃日を決め、各地域で清掃活動が展開されている。

第三は、路上違反広告物の追放である。市内の主要駅周辺などの違反広告物が多い地域をモデル地区とし、市の委嘱を受けた推進員が中心となって監視や撤去作業を実施している。

これらのほか、ビル街や駅前広場、空閑地などの対策を、市民と行政が一体となつて推進している。

## ■各地で新しい動きも

四年が経過するなかで、新しい動きがみられるようになった。

鶴見、神奈川など多くの区では、「ノーポイ運動」を推進している。この運動は、さ



さわやか運動に一役（さわやか号）

わやか運動と火災予防を結びつけ、市民のモラルの向上をはかろうとするものである。

また港南区の上大岡では「大岡川を掃除して、街の顔をアピールしていこう」という計画が動きだした。この計画は、五七年一〇月、上大岡再開発協議会が発足した際に決まった。他の地区にはない街づくりをと、近くを流れる大岡川に着目。市民団体の「よこはまのかわを考える会」や周辺町内会の



「笑顔」—— 鶴見区汐田町、佐々木勝さんの作品

協力のもとに、この計画の具体化がすすんでいる。

さらに、福祉と結びついた例もある。横浜市精神薄弱者育成会が五七年に「ワーキングセンター」を設立したが、毎日のように実施しないと効果があがらない市中心部の清掃を、このセンターに委託したものである。

#### ■8割が定期清掃を実施

ところで、市民の連帯感、自治を高めていくには、行政の側でも積極的に市民意識が育つように働きかけると同時に、時間をかけてじっくり見守るといふ面も必要である。市では、このような考え方からさわやか運動を提唱したが、市民の間に次第にこの運動が定着してきている。自治会・町内会の約八〇％が定期的に清掃活動をしていることでも、そのことがうかがえよう。

今後、さらにこの運動を通して、市民の連帯感を高めていくには、清掃活動だけでなく、こみを出さないといった他人への迷惑行為の追放など、精神的な活動をも含めたものへと進展していくことが望まれる。